

RA分子薬理学の最前線に立つ スペシャリストの役割

《司会》後藤 美賀子 編集員／国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター
宮崎 長一郎 氏／日本リウマチ財団 専門職委員会 委員 宮崎薬局

《参加者》亀山 俊 氏／望星薬局
詫間 梨恵 氏／国立成育医療研究センター
與那覇 晃子 氏／埼玉メディカルセンター ※50音順



リウマチ性疾患の薬物療法に精通した薬剤師を育成するためのリウマチ財団登録薬剤師制度が発足して、今年で5年目を迎えます。そこで、登録薬剤師一期生の方々にお集まりいただき、登録薬剤師としての役割や今後の抱負などを伺いました。司会は国立成育医療研究センターの「妊娠と薬情報センター」で薬剤師と一緒に診療する医師の後藤編集員と、開局薬剤師であり、日本薬剤師会の常務理事として生涯学習や学術を担当している宮崎氏です。



左から後藤編集員、詫間氏、亀山氏、與那覇氏、宮崎氏。日本リウマチ財団の会議室にて。

登録薬剤師の資格を取得した理由

後藤 薬剤師は病院勤務か薬局勤務かによって、業務内容が大幅に異なると思われます。そのため、本日は病院の先生2名、薬局の先生1名にお越しいただいています。まずは自己紹介を兼ねて、登録薬剤師の資格を取ろうと思った理由を教えてください。

詫間 後藤先生とおなじ国立成育医療研究センターに勤務しています。子供と妊婦さんが多い施設です。7年程前から小児の腎臓・リウマチ・膠原病科の担当になったのですが、はじめは大人の関節リウマチしか知らず、小児リウマチは多岐に渡っているの、知識を深めるために資格を取ろうと思いました。

與那覇 勤務先の埼玉メディカルセンターの膠原病内科では、1ヵ月10人以上にバイオ製剤を新規導入していました。それを2名の薬剤師が外来で服薬指導している状況でしたが、バイオ製剤の種類も多く、よほど知識がないとうまく患者さんに説明できないと感じていま

した。そんなときに上司に勧められ、思い切ってチャレンジしました。

亀山 神奈川県伊勢原市の東海大学病院の前にある薬局に勤務しています。「得意の専門分野を持ちたい」という思いもあって、リウマチやバイオ製剤などの勉強会に参加していた時期に、「薬事日報」の一面にリウマチ財団の登録薬剤師制度が始まるという記事が掲載されていたのを見て取得しようと思いました。

資格はどのように役立っているか

後藤 資格をとられて、実際に役に立ちましたか。資格を取得したことは院内で認識されていますか。

與那覇 リウマチ担当医と薬剤師は知っています。資格をとったこともあり、リウマチ患者さんの服薬指導を任せられました。ネットで検索された患者さんから、「君、載ってるね」と言われたこともあります。

宮崎 外来担当の薬剤師は同じ患者さんを

継続してみるのが難しいのではないですか。
與那覇 当院では薬剤師が注射の指導も行っていますが、患者さんは手技ができるまで頻繁に通院されるので、なるべく同じ薬剤師が担当します。不在のときは申し送りをします。
亀山 私の薬局ではリウマチ患者さんにはできるだけ登録薬剤師が担当するようにしています。担当する薬剤師によって確認や指導のフォーカスが異ならないよう、薬歴の表書きに指導のポイントや患者さんの訴えを記録しています。痛みのある部位や生活上の問題点ですね。

また、処方内容に疑義があり電話照会をしたのですが、処方変更が行われず、後日図々しく処方医の意図を確認しに医局を訪ねたことがあります。そんなことができたのは登録薬剤師という資格を取得したことを含め、自分なりにリウマチの知識に自信が持てるようになったからだと思います。

後藤 薬物治療を始めるときは、小児でも本人を主体として服薬指導をされているのですか。

詫間 小学生ぐらいになったら、まず本人に病気を理解してもらうことから始めます。バイオ製剤をスーパーマンに例え、「火事が起きているので、それを消してくれるよ」とか、免疫抑制剤は「普段は体を守ってくれるおまわりさんが、間違えて自分の体を敵だと思って攻撃してしまっているから、おまわりさんをお休みさせる薬だよ」などと、絵を用いながら病気と薬の話をすると「私が使っているのはすごい薬なんだ」と思ってもらえます。リウマチ疾患は大人になっても内服継続が必要な場合が多くあるので、最初のうちから話をすることが大事だと思っています。お子さん用の説明書をつくらたり、その理解度をテスト形式で確認したりもします。

亀山 個々の患者さんは様々な生活上の工夫をしていて、これらを聞き出してパンフレットにまとめたものをフィードバックとして患者さんへ渡したことがあります。朝のこわばりで着替えができないので夜のうちに服を着て寝るとか、カボチャが切れないのでレンジでチンするとか、

いろんな工夫が聞き出せました。闘病中の患者さんは、ほかの患者さんの状況を知り、工夫していることを知って、励みになったようです。

與那覇 メトトレキサート(MTX)の服薬指導用パンフレットを医師と薬剤師の共同で作成しました。バイオのオートインジェクター製剤は既成のパンフレットを見てもうまくいかないことがあるので、1枚の裏表で完結するような写真付きの手順書をつくってお渡ししています。

後藤 皆さんはリウマチ財団のバッジを着けていますか。

亀山 着けています。服薬指導している際、「リウマチの薬剤師さんがいるんですね」と言われました。バッジを見て指名して相談してくれる人もいますので、仕事のやりがいにつながっています。

與那覇 私は着けていませんでしたが、着けたほうがいいですね。

後藤 バッジを着けていると、「それは何ですか」というところから話が始まることもありませんよね。

亀山 そうです、そうです。ぜひ、着けてください。

病院薬剤師と薬局薬剤師の情報共有

宮崎 病院と薬局の薬剤師同士で情報を共有する機会はありますか。

與那覇 2016年に、バイオ製剤を院外処方にしたのですが、薬局の薬剤師の方々が戸惑うことのないよう、一連の説明会を行うなど、何ヵ月か準備をしてから院外処方に出しました。そのときは登録薬剤師を取得してよかったと思いました。現在は、導入してから3ヵ月ぐらいは院内処方、その後は院外処方というかたちに切り替えています。当院では年数回、薬業連携の会を開催しており、リウマチ関連の会も継続しています。

宮崎 薬局の立場としては、患者さんの情報



小児のリウマチ患者さんを担当する詫間氏。



病院外来を中心に活躍する與那覇氏。



薬局チェーン本店の薬局長・亀山氏。

や注射手技などに関する情報は伝えていただきたいですね。

後藤 地域によってはカルテを共有されていると聞いたのですが。

宮崎 長崎県は非常に特殊で、患者さんの同意のもとで、暗号化したインターネットを使って医療機関同士や薬局をつなぎ、医療情報を共有する「あじさいネット」というシステムがあるのです。薬局がそれに加入し、薬剤師がその主催する講習会を受けると、カルテの内容から検査値、医師の紹介状まで見ることができます。主治医の許可は要りません。

後藤 そういうシステムがない場合はどうやって連携すればいいのでしょうか。

宮崎 病院薬剤師から薬局の薬剤師に、医師の紹介状のような内容の手紙を渡して下さると連携がしやすくなります。

詫間 薬局ではどういう情報を必要とされているのですか。

宮崎 患者さんの検査値の他に、病院でどういう説明をし、どこまで指導したかですね。

亀山 わかります。それを知っていると知らないのでは服薬指導のスタートが違うんです。あとは、以前薬剤師向けにアンケート調査を行ったのですが、病院薬剤師から他病院の併用薬の情報を共有したいという回答が多かったの、こういった情報も共有していけるといいですね。

與那覇 私は将来的には注射導入した場合の理解度や苦手な部分、忘れがちどころなど、簡単なコメントをお薬手帳経由で薬局に出したいと考えています。

宮崎 いいですね。大規模なカルテ共有システムも役立ちますが、薬剤師同士の顔のわかるリアルな連携のほうが大切だと個人的には思います。

詫間 ただ、病院薬剤師は入院患者で手一杯で、外来までは手が回っていないところが多いです。

後藤 まずは、院内と院外の登録薬剤師の間で連携ができるといいですね。

詫間 私は小児薬物療法認定薬剤師の資格も持っていますが、薬局薬剤師も取得できるので、研修のときに全国の薬局薬剤師の方とお話しする機会があり、「何か疑問点があればいつでも電話してください」と伝えてあります。小児の場合は調剤方法も特殊なので、よく電話がかかってきます。また、小児期医療から成人期医療への移行期に薬の管理が本人に代わることで休薬や怠薬が多くなり、薬局薬剤師の力が

必要だと感じているので、何らかの形でコミュニケーションが取れるといいと思っています。

宮崎 地域ごとに、院内と院外の登録薬剤師が一堂に会して話をする機会があればいいと思います。そうすれば、リウマチ医療のなかで薬剤師は何かできるかが見えてきて、面白いことができると思うのです。

後藤 困っていることの共有でもいいですね。資格を生かしていくうえで、そういう会があればいいと思います。

リウマチ財団登録薬剤師としての知識の磨き方

後藤 知識のアップデートのために、何か努力されていることはありますか。

亀山 日常業務で疑問に思ったことはすぐ調べて、理解するように心がけています。

與那覇 登録薬剤師を取得したと言え、勉強会の情報も入ってきますし、医師もリウマチに関する知識を教えてくださいました。「自己注射はやっぱり嫌。無理です」と言われる患者さんから信頼と納得が得られる説明をするためには、先生がこの治療を選ばれた理由を正確に知っておく必要があるの、医師と綿密にコミュニケーションを取るようにも努めています。

詫間 リウマチ財団や企業主催の勉強会、リウマチ学会、小児リウマチ学会などで知識を高めています。また、日常の服薬指導のなかで患者さんから学ぶことも多いです。どこが痛いのか、どんなふうに腫れるのかなどは、実際に患者さんを見ないとわかりません。

與那覇 そうですね。腫脹という言葉は知っていても、実際どうなっているのかは自分の目で見ないとわからないので、患者さんと信頼関係を培って「私にも痛いところをちょっと見せてもらえますか」と言い、次の指導のときは「注射したら、ここはだいぶ良くなりましたね」などとコミュニケーションをとっています。

亀山 高齢で手指の変形ができあがってしまった関節は痛そうにみえますが、痛くないのだということも、患者さんから聞いて知りました。患者さんとのコミュニケーションから得られる知識は新鮮です。

後藤 バイオ製剤を始める患者さんがいるときには、医師から申し送りがありますか。あるいは、定期的なカンファレンスなどをされていますか。

與那覇 外来部門で定期的なカンファレンスはないので、当日に連絡がくることも少なくあり

ません。前もって情報が入ってきたときは、「どんな患者さんですか」とこちらから医師に聞きに行くこともあります。疑問点などを事前に聞いておきたいので、なるべく情報を回してもらるようにクラークの方にもお願いしています。

後藤 医療費のことを聞かれることはありますか。

與那覇 あります。処方医も医療費を気にかけて、患者さんによく情報提供して下さるので、それほど困ることはありませんが、医療費についても勉強しました。

亀山 私は、妊娠を希望されている新婚の女性患者さんでMTXは使えずタクロリムスで治療しているのですが関節の腫れは軽快せず「先生にバイオ製剤を勧められたけど高額だし、迷っている」と相談されたことがあります。新婚さんにバイオ製剤は確かに高額で大変だと思いましたが、さっきのご高齢の患者さんの変形した手指みたいになって欲しくないと思、「高いかもしれないけど、バイオ製剤で治まればやめられるかもしれないし、赤ちゃんができたなら、そのときに続けるかどうかまた考えればいいのか」と背中を押してあげました。

リウマチ医療と薬剤について

後藤 薬剤師の立場からリウマチ医療と薬剤について、現状の問題点や将来の展望をお聞かせください。

詫間 バイオ製剤の注射時の痛みは小児にとっては大きな問題です。添加物等が改善された薬剤を使っている患者さんからは「痛みがだいぶ違う」と聞いているので、製薬会社に対しても患者さんの訴えを伝えていきたいです。また、バイオの二次無効例が出てきていること、小児の場合は免疫抑制中の生ワクチンの接種スケジュールなども問題となることが多いです。

亀山 支払いの窓口となる薬局としては、患者さんの反応から、薬剤が高額であることが問題だなと感じています。

宮崎 そうですね。バイオ製剤などの高額な医薬品については、薬局の会計の段階で患者さんが「えっ」と驚かれることがあります。ご自身が「購入する商品」の価格について事前に説明と承諾がなければ、患者さんがかわいそうです。ドクターには事前に患者さんをご相談いただきたいです。

我々としては、バイオシミラーが安定供給され

ると勧めやすくなるのですが、ただ、立体構造が同一とは言えないので、そこは慎重にならなければいけません。でも、使わないとバイオシミラーの問題点はわからないので、使ったほうがいいと思います。

今後の抱負

後藤 今後も登録薬剤師の資格を継続したいと思っていますか。

與那覇 もちろん、継続したいと思っています。リウマチの患者さんとは長い付き合いになるので、継続的な支援ができればいいのですが、当院のシステムでは導入時に濃密に関わり、その後のフォローはあまりできていません。今後、資格を継続していくなかで、院外薬局と連携するとともに、通院している患者さんにも何らかのアプローチができればと考えています。

亀山 私はリウマチを自分の業務のテーマにしていることもあり、資格は仕事をするうえでモチベーションにもなるので、継続していきたいです。職場では「リウマチの患者さんは僕らに対応させて！」と頼んでいます。一人でも多くのリウマチ患者さんに関して、その方々を継続して見守っていききたいですね。

詫間 私も継続したいです。特に小児のリウマチをやっている薬剤師は非常に少ないですし、勉強会もなかなかありません。小児の薬は成人に遅れて承認されるので、成人で適応を得た新薬がどんな薬なのか、自分で知識を高めていかなければなりません。また、私自身が育児中で、リウマチの患者さんが育児をするのはどれほど大変か身を持って感じているので、今後はそういうところにも関わっていききたいと思っています。

座談会に参加してみよう

後藤 座談会に参加してみよう、いかがでしたか。

詫間 1人じゃないという感じがしました。薬剤師は1人で黙々と勉強することが多くて、それをアウトプットするのは得意ではないので、やはり共有することが大事だと思いました。このように集まって話すことが大切ですね。

亀山 病院薬剤師の着眼点とか、処方される側の先生のお話もとても勉強になりました。今日聞いた情報を持ち帰って、さっそく真似してみようと思います。

與那覇 特に小児は今まで勉強したことがなかったの、すごく新鮮に感じ、興味もわきました。また、薬局の立場だとそのように考えているんだと、言われて初めて気づくこともありましたが、何を伝えたら良いかがわかってよかったです。

宮崎 それぞれ、着眼点が違うので非常に参考になりました。これからは薬剤師同士の連携が重要です。今日をスタートとして、リウマチ財団の登録薬剤師間で連携し、何かができればいいと思います。

後藤 はい。本誌でも薬剤師の先生方のお役に立つ企画を実施していきたいです。本日はありがとうございました。



ご自身の薬局も経営する宮崎氏。日本薬剤師会常務理事。



詫間氏とおなじ施設で診療する後藤編集員。